

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372700924		
法人名	社会福祉法人蘇清会		
事業所名	グループホームあいらく		
所在地	熊本県上益城郡山都町滝上223-1		
自己評価作成日	平成21年12月10日	評価結果市町村報告日	平成22年1月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構		
所在地	熊本市上通町3-15 ステラ上通ビル4F		
訪問調査日	平成21年12月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

阿蘇山を一望できる高台に位置し特別養護老人ホーム蘇望苑の併設施設である。年々重度化する中でも利用者と一緒に過ごす時間を大切に家庭的な環境を忘れず安心して生活を送って頂けるよう支援している。昼食・夕食を委託にしている為、月1回はあいらくで昼食作りを行い利用者の好きなものを食べていただけるように工夫している。また、食材も発注したものでなく菜園で取れたものや御家族や職員からの頂いた野菜や果物も取り入れ、会話が弾むようにしている。皆で外出することは難しくなってきたが、外出が可能な方たちにはドライブや買い物など支援を行っている。また、ホームでも併設の施設と共同で祭りをしたり慰問がある時には積極的に参加をして楽しみごとが多く出来るように支援を行っている。安全面においても共同で避難訓練を行い、職員には消火器具の取り扱いの訓練など災害に備え速やかに行動が出来るように指導し、併設の看護師の協力もあり緊急時の対応や日頃の状態の変化にも早く対応が出来、安心して暮らして頂けるように支援を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同一敷地にある介護老人施設の協力の元で、災害時の連携や家族会の開催が行われている。ソフト面で業務の担当制は、それぞれの課題を早期に見つけ毎月のミーティングで話し合い、職員が共有し問題解決に結びついているものと思われる。しかしながらグループホームの特徴である入居者に寄り添うケア・自立に向けた支援などが職員ひとり一人の力量に求められているものの、理念の共有が十分でない点を管理者・職員共々の課題として今後検討されることを望みたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念はホールの見えやすい位置に掲示し職員一人一人が日頃から意識してサービスの提供を行えるようにしている。しかし移動等で職員の交代時、十分な理念への指導が行えていない実状もある。	理念は、誰もがいつでも確認できるようにになっている。しかし、理念について話し合う機会が十分出来ていない。特に着任間もない職員に関して理念の説明が不十分である。	理念について話し合う機会を持ち、全員が共有して、理念に基づくケアが行えるような取組みも期待されます。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区のお年寄りが集まる会に参加し交流を深めたり小学校や他の団体などの慰問等には積極的に参加をしている。しかし、職員が地域の活動等に参加する機会がない。	地域のボランティア団体が主催するイベントに参加したり、グループホームで地域の方を招いてそうめん流しを行うなどの交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々への啓発活動等は行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年度より様々な意見が出されており会議を基に地域の公民館で行われている交流会にも参加するようになった。少しでも意見を参考に実践へと結び付けていきたい。	地域の様々な役職を担っている方や家族に委員をお願いしている。開催は定期的に行われており、報告や話し合いの他に、認知症に関するDVDで勉強会等も行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議でも現状を報告して意見をもらっている。また、解からない所があれば直接又は事務所を通じて連絡を取り協力関係が築けるよう努めている。	運営推進会議のメンバーとして来てもらう他、普段でもわからないことなどは電話で相談を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部での研修に参加してもらったり、職員会議でも身体拘束について取り上げており、マニュアルを通じ理解してもらうように努めている。	外部の研修会に参加した職員が、職員会議で話をして職員全員が理解を深めている。普段のケアの中で具体的な行動に対しても指摘し学び合いを心がけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修の中でも虐待について学ぶ機会があったり、内部でも研修を行う予定で、職員全体が統一した意識を持ち虐待防止に取り組んでいけるように努めている。		

グループホーム あいらく

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度について学ぶ機会がまだ持っていない。一部の職員は外部の研修の中で学ぶ事が出来ている。現在、該当する入所者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前面接や入所時は契約書・重要事項等を十分に解かり易く説明した上で不明な点等を気軽に尋ねて頂く様に促している。又、解約し自宅へ戻られる際は在宅ケアマネジャーやその他関連機関と一緒に話し合い退所後も安心して暮らして頂ける様に支援している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言葉だけでなく態度や行動にも目を配り、思いを察する努力をしている。また、家族が面会に来られた時にも些細な一言にも注意をして、より利用者主体・家族の希望に添えるケアに努めている。	家族とは面会に来た時に意見を聞くようにしている他、法人施設と合同で家族会を年に1回開いている。運営推進会議に家族の代表を2名ずつ交代で参加してもらっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に相談員会議や実行委員会を開き、運営について各行事についても職員の意見や提案を反映させている。	ホーム長が普段の業務の中で職員の意見を把握するようにしている。また、毎月のミーティングでは、食事・排泄・環境・レクリエーション及び広報・室内環境及び入浴の担当者から話を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々職員の勤務状況については把握し、各部所ごとの意見もたえず聞き職場環境の整備に努める。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の介護力・能力を常に観察し、その職員に必要な研修を積極的に受けてもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の社協や病院・介護サービス事業所が集まる会議に出席したり、上益城部会の連絡会や各研修などにより外部の職員との交流を図っている。また、近隣と同サービス事業所とも連絡を取り合い質の向上へ繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接にて本人の生活状態や希望を把握している。また、入所後は環境の変化により落ち着かれないこともあるので何か要望はないか常に声掛けを行い、コミュニケーションに心がけ関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接で注意してもらいたい事やどのような暮らしを望まれるか、さりげなく問いかけている。家族の話には傾聴して面会に来られた時には今の生活を伝えながら何かご意見はないか尋ね、よりよい関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	重要事項等を十分に説明した上で本人の状態や要望、家族の要望に沿ったサービスの提供に努めている。又、本人や家族がその他のサービスを希望されるときは、その関係者と連絡を取り調整した上で希望に沿った対応がなされるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の生活歴を把握し、出来る事は見守りながら自分でしてもらい必要な支援のみを行っている。また昔からの様々な出来事を教えてもらい、職員側も学び共感する事で相互の関係が築けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事などに案内し参加をしてもらい一緒に過ごす時間を作り、一緒に支援をしてもらっている。面会に来られた時もゆっくりと時間を過ごしてもらい家族との絆を大切にしながら職員側で分からない事があれば、家族に相談し皆で支えあっているように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人からの要望があれば家族などに電話をしたり、自宅へ外泊をされたり、地元へドライブに出かけ馴染みの人と出会うたりして関係が途切れないようにしている。	入居者のなじみの人が敷地内のデイサービスに来た時に会いに行ったり、来てもらったりしている。なじみの散髪屋にカットに来てもらったりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の状態や相性を把握しコミュニケーションが困難なときには職員が仲介者として間に入りフォローをしたり、共同でレクリエーションを行い楽しんだりして、利用者同士が関わりを持てるように支援している。		

グループホーム あいらく

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	規約を終了すると、ほとんどの家族との関係が途切れてしまうが、中には近所の方の相談をされたり、施設の祭りに参加していただいたりした。今後も相談や支援が出来るような関係づくりに努めていきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人が言葉で訴えが可能な場合は直接聞き取っているが、困難なときには家族へ意向を尋ねたり日常生活の中で表情や態度を読み取り、本人主体で思いを汲み取るように努めている。	普段のケアの中で言葉による意思表示だけでなく、行動や態度によっても把握するように努めている。家族にも好みなどを尋ね、その人らしい日々が過ごせるケアができるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族に今までの生活歴や暮らしぶりを聞き取り、また在宅ケアマネージャーや各種サービス事業所からもサービス利用時の状況等の情報を提供して頂き把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の訴えなどを聞いたり、こちらからアプローチをしたりして本人の好まれる事や持っている力の把握に努めている。変化がある時には個別記録や申し送りノートに記載し職員全員が把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族に意見を伺い介護計画を立てている。作成後、職員からも意見を求め変更すべきときには再度作成をしている。	介護計画は本人や家族の意見をもとに暫定的な計画を作成し、しばらく様子を見た上で職員の意見を取り入れて計画を完成させている。	計画に反映できるような記録の充実も期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録への具体的な記入が出来ている時もあれば出来ていない時もあり、介護計画に基づいた記入もあまり出来ていない。情報の共有は申し送りや申し送りノートにて出来ている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	短期利用共同生活介護の指定は受けているが、現在までに利用された事はない。		

グループホーム あいらく

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人や家族、運営推進会議等において意見をもらい地域資源の把握に努め、交流会の参加や地域ボランティアの行事参加など暮らしを楽しむ支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約病院から4週1回の回診に来てもらっている。かかりつけ医は決まっているが、本人や家族の希望があれば変更もでき、適切な医療・看護が受けられるように支援している。	本人や家族の希望に応じた受診・通院を基本としているが、入居者の多くはホームの協力医療機関の医師の回診を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者に変化があれば、随時併設の特養看護師に連絡を行い、直接見てもらったり指示を受けながら、適切な受診・看護が受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院された時には病院へ情報を提供して適切な医療ができるようにしている。入院中も面会に行き病院関係者と情報を交換して関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医・家族・ホームとで連絡を取り合ったり話し合うなどして、よりよい支援が出来るように取り組んでいる。	重度化した時のホームとしての方針は入居時に口頭で説明し、実際にその時がきた時に意思を確認しながら、家族、職員、医師などで話し合い支援に取り組んでいる。	事業所のできることが本人や家族に明確に伝えるためには、看取りに関する方針等の文書を作成することが期待されます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	併設の特養にて毎年研修会が実施されており、参加をして知識の向上に努めている。また、マニュアルに準じて対応するように行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との協力体制は築けていないが、併設の施設と合同にて年2回の合同避難訓練を実施している。消防署の協力にて消火器具の取り扱いやマニュアルにて災害時の対応などを取り組んでいる。	法人施設と合同で年に2回昼・夜想定避難訓練を実施している。今年はホームと本体施設で災害時の協力も訓練した。	

グループホーム あいらく

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人の目線に合わせ否定したり大声で話したりせず、一人一人に合った声掛け・対応をしている。	本人本位のケアを念頭に置いて、一人ひとりを尊重した声かけや対応を実践できるように心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に対して自己決定を出来るような声掛けをしたり、ジェスチャーや選択肢を増やす等自分で決められるような環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分の希望が言える方には、その希望にそった過ごし方をしてもらい、訴えがない方でもその日の表情や体調に配慮して、その人のペースで一日を過ごして頂けるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人でスカーフ・マニキュア・帽子などを使用。日頃の整容にも気を配り、お洒落に興味を持ってもらえるように支援している。行事等でも、お化粧品やお洒落な服を着てもらい楽しんでもらうように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼・夕食は委託にしている為、月1回は利用者の嗜好に合わせた昼食作りを実施している。下拵え等、稀に手伝ってもらうこともあるが準備の手伝いなど個々の力を活かす場面がなく、環境作りも考えていく必要がある。	法人施設の配食サービスを昼食と夕食は利用している。朝食と月1回の昼食はホームで作っている。	ホームの日常生活を豊かにするために職員も入居者と同じ食事を摂り話題が広がるような取組みも期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態については観察を行い、その人に適した食事を提供できるように支援している。又、食事チェック表を活用して食事量が低下している方には補助食品を使ったり、主治医へ報告し高カロリー食の処方も行い栄養の確保に努めている。水分に関しては好みの物や回数を増やしたり、トロミを使用するなどして摂ってもらう様に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。個々の力に応じ準備だけ、嗽だけは自分でもらったり、口腔清拭を行うなどしている。		

グループホーム あいらく

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人のソワソワしたりする行動を見逃さないようにしたり、排泄チェック表を活用し個々の排泄間隔に応じた声掛けを行っている。また、排泄に必要な物品も個人に合わせ取り扱うようにしている。	職員の中に排泄担当責任者を決めて、毎月ミーティングで報告してもらっている。排泄チェック表を作り、個々の排泄のリズムを把握して、声かけを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄についての研修に参加して原因や及ぼす環境の理解を深めている。個々に応じ排泄を促せるような飲み物を取ってもらったり、排便チェック表を活用し一人ひとりに応じた下剤の服用を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	当日の入浴予定者は決められているが、本人の訴えや希望・状態に合わせて変更を行ったり、その日に入りたい人がいるなら予定に組み込んだりして対応をしている。	入浴予定日はあるが本人が拒否された時は言葉かけに配慮したり、無理強いせずに他の日時に変更している。予定日でなくても本人が希望すれば入浴を実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の状態や状況に応じて、また本人からの声を聞きながら環境を変化させ、落ち着かれないときには一緒に話をしたりして安心して休んで頂けるように支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎月回診後、使用している薬を確認し処方箋も職員がいつでも確認できる位置に置き、全員が理解しておけるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホーム内では洗濯物たたみ・干しやモップ掛け、色塗りやビデオ鑑賞に菜園の手入れ・収穫等を行い、併設の施設へ様々な行事ごとに積極的に参加をするなどして楽しんで過ごして頂けるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自宅近くの地域周囲へドライブに出かけたりにしている。9月以降、インフルエンザの感染を恐れ個人での外出・外泊以外は自粛している。	年間計画で示されている花見などの季節のイベントには出向いているが、普段は入居者の希望に応じた外出支援の頻度が少なく、買い物やドライブ等に出かける入居者が少ない。	入居者が外出したいと思うような雰囲気作りの取り組みを望みます。

グループホーム あいらく

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で金銭を持ちたいと希望される方に関しては所持をしてもらっている。また、希望があれば買い物にも出かけるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人より希望があれば電話を掛け自由にやり取りができるように支援している。 手紙は書いたことがない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然の光を取り込み明かりの調節も利用者と同じながらしている。廊下には様々な写真などを張り、屋内外の飾り付けも係りにより季節感のある飾り付けをしている。	共用空間はテーブルやソファなどを設置し、また畳に炬燵などの和室も備えている。廊下には最近の2ヶ月程の行事写真を貼り生活感を味わってもらっている。クリスマスの飾り付けをして季節感を出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の空間には和室とホールがあり、和室には掘り炬燵を設置し、ホールには間仕切りはないがソファを数台設置して各々で気の合う人と過ごして頂けるように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には使い慣れた物や愛着がある物を持ってきて頂くように本人や家族には促している。また、家族が泊まる時にもソファベッド・布団を用意している。居室内は本人と家族の写真や送られてきた手紙などを張り居心地よく過ごして頂くように支援している。	家族や入所者に家庭で使っていた物や本人の好きな物を持ってきてもらうように話している。本人の家族の写真などを飾っている人もいる。	入居者の馴染みの人やと家族をつなぐ支援として居室の充実を検討し支援されることを望みます。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の状態に合わせ、ベッド周りの環境などを変化させている。また、廊下には手すりを設置しており、つたい歩きがしやすいようにしている。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
 目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	理念について話し合う機会が出来ておらず、新人職員への理念の説明も不十分である。	職員全員が理念を把握し、それに沿ったケアを行えるようになる。	1. 朝の申し送りの際、出勤者全員で唱和する。 2. 年2回、理念に関する会議を行い出来ている事出来ていない事の再確認する機会を設ける。	12ヶ月
2	33	看取りに関する事業所としての方針や詳細を明記した文章がない。	利用者や御家族へ看取りに関して、事業所が出来る事や方針を理解して頂ける文章を作成する。	1. 契約書もしくは、重要事項説明書に看取りに関する事項を設ける。 2. 新規の方のみでなく、現在利用して頂いている利用者の御家族の方にも更新を行い、懇切丁寧に説明を行い理解をいただく。	6ヶ月
3	40	入居者と職員と一緒に食事をする機会が少ない。	職員も一緒に同じ食事を摂る機会を多くし、話題づくりが出来るようになる。	1. 検食以外でも、職員は最低月1回は早出の時に厨房へ昼食を頼み、一緒に食事をしながら会話を行う。 2. 夜勤明けと早出は一緒に朝食を摂りながら、会話を行う。	2ヶ月
4	54	馴染みの方や御家族が来られても、ほとんどがホールで面会をされ、居室で一緒にくつろいで頂ける環境が出来ていない。	居室の環境を整え、利用者と御家族や馴染みの方々が一緒にゆっくりと過ごせる場を作る。	1. 一つ一つの居室を見直す。 2. 利用者や御家族にも居室に関する要望を聞いてみる。 3. 職員で話し合い、面会に来られた時の事も考慮した上で、その人にあった居室環境を検討する。	12ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。